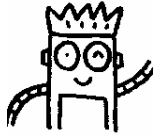


ぜんぼうこうえんふん 前方後円墳は、なぜ「かぎ穴」の形をしているの^{あな}



方形と円形をつなげた形だから、「かぎ穴」の形のように見えるんだよ。

方形と円形をつなげた形が前方後円墳

前方後円墳とは、前が方形（四角形）、後ろが円形の古墳、という意味です。方形と円形がつながっているので、空から見ると、かぎ穴の形のように見えます。その中でも、方形の部分の先のほうが両側に広がり、^{しゃみせん} 三味線の「ばち」のような形をしているものは、「ばち形前方後円墳」ともよばれています。

円形部分がお墓らしい

前方後円墳は、^{ちょうせんはんとう} 朝鮮半島 や中国にもない、日本独特の形の古墳です。前方後円墳という名前は、江戸時代の^{がもうくんべい} 蒲生君平という学者が、とりあえずつけた名前です。本当はどっちが前なのか、長い間わからなかったのです。近年の研究では、円形部分は、死者をほうむった場所であること、方形の部分は、もともと、円形部分へ行くための通路で、のちに古墳の祭だんにあたる場所となった、という説が、有力になりました。方形部分の「ばち」形については、台形の祭だんがつくられたから、こういう形になった、といわれています。

円形・方形には、それぞれ意味がある

お墓が円形、祭だんが方形になったわけについては、古代の中国の、円形は円い天を表し、方形は四角い地を表す、という^{てんえんちほう} 「天円地方」の考えによる、とされています。^な 亡くなった王は、円い天にほうむられることによって、神になり、それを祭る後つぎの王は、四角い地の上に立って、この地の支配者の地位を確かなものにする、というわけです。古くから中国でつくられた^{かへい} 貨幣が、円形の中心に四角い穴をあけた形なのも、「天円地方」の考えによるもの、といわれています。